

教科名	見 察 の 実 態(現状の問題)	具体的な改善のための方策
国語	<p>教科の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 【読む】 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な言語事項を理解し、文の構成に関する事項を活用できない児童がいる。 【書く】 <ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く力に個人差が大きい。文章の構成や段落の使い方に課題がある。 【言語】 <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の習熟に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動の関係を考えながら、文章を捉えられるように、音読などで繰り返し指導する。 【書く】 <ul style="list-style-type: none"> ・作文や学習感想、日記等児童の興味に合わせて文章を丁寧に考えながら書く機会を作り、文章の構成や段落の使い方を指導していく。 【言語】 <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習を学校と家庭学習の両方で充実させる。学期の漢字はできる限り早く進め漢字の活用にも力を入れる。
	<p>言語能力育成のための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 【言語能力育成のための工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・読書量が少ない。 ・聞くことについては比較的できるが、自信をもって発言することができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 【言語能力育成のための工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・「読書量を増加計画」として、声かけと読書量の数値化を行い読書量を増加させて、言語能力を体系的に向上させる。 ・可食や日直等、人間で話す機会を増やす。また、授業内でも自分の考えを言葉にする機会を増やす。 ・全体の前で発表する前に、班や隣同士で意見交換し、自信をもたせたうえで発表させるようにする。
社会	<p>教科の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 【資料の読み取り】 <ul style="list-style-type: none"> ・統計資料に対して着目する児童も多く、暗記しなければいけないと感じている児童も多い。地図や統計資料などを読み取る能力を高めていく必要がある。 【考えの表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・人々の努力や工夫、表が国の特色などを関連付けながら表現できない児童が多い。 【意見をつなげた学習進行】 <ul style="list-style-type: none"> ・異行きや考えを関連付けながら、意見交流をすることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 【資料の読み取り】 <ul style="list-style-type: none"> ・資料を全体で読み取る場面を設定する。また、資料を関連付けて考えるために、表書や工夫したり、意見をつなげたりする。 【考えの表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取れる事実、そこから考えられること、またその根拠をノートに書き、それを発表してお互いの考えを深め合う活動を充実させる。 【意見をつなげた学習進行】 <ul style="list-style-type: none"> ・議論が思うままの時は、教師がコーディネーターとなり意見をつないでいく。徐々に児童が主体的に意見をつないで学習を進めることができるようにしていく。
	<p>知識の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算の処理に時間がかかる児童が多い。また、正確さが課題となる児童も多く見られる。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・問題に対して、意味を深く理解したり、それを説明したりする力に個人差が見られる。 ・小数の乗除計算や割合の学習などでは数直線の活用が有効であり、身に付けておく必要がある。 【クラスによる言語活動の工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの場面で、児童同士の意見の交流が活発ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識の定着】 <ul style="list-style-type: none"> ・四則計算に活用するあり方のあり方の計算を数直線や方眼紙やタイム等を用い、年間を通して指導する。また数直線を使い工夫して計算できるように指導していく。また、表し合いの活動を重視する。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の授業形態を工夫し、集団討議場面の時間確保と充実を図る。また単元の中で、問題解決型の学習と反復練習を中心とした学習を、効率的、効果的に設定していく。 ・小数の乗法や除法の計算決定や、計算方法の意味理解の根拠として数直線を使いこなせるよう、時間を取って指導する。 【クラスによる言語活動の工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・必ず全員討議の場をしっかりと確保する。同時に少なくとも自分の考え1つはしっかりと黒板に掲示し、授業の進め方を工夫する。また、分業、担当制の検討、異
理科	<p>実験・観察の記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察が好きな児童は多くいるが、簡潔な記録がとれない児童も多く見られる。 【結果・考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・結果と考察の違いが分からない児童がいて、考察を書くことができていない。 【実生活に生かす】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを実生活と関連付けて考えることができていない。 【話し合い】 <ul style="list-style-type: none"> ・理科に苦手意識をもっており、発表をする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 【実験・観察の記録】 <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察するときには、どういった点に注目するべきかあらかじめ伝える。よく書けている児童の記録やスケッチを取り上げて紹介する。 【結果・考察】 <ul style="list-style-type: none"> ・結果と考察の違いを児童に伝えるとともに、結果をもとに、考察を書くように指導する。考察する時間を十分に確保する。 【実生活に生かす】 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りにおいて、学習内容と実生活とのつながりについて考えさせ、生活に生かそうとする態度を育成する。 【話し合い】 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を生かして、少人数での意見の交流から始め、全体で共有していけるように段階を踏む。
	<p>音楽表現の前準備工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色やリズム、フレーズ、歌詞の内容など、音楽を制作している要素を聞き取ったり感じたりしながら表現の工夫につなげている児童が増えてきているが十分ではない。 【伝え合う】 <ul style="list-style-type: none"> ・楽器と音楽の構造などについて理解しているが、言語化し伝え合うことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 【音楽表現の前準備工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分がしたい表現に必要と becoming 技術の習得を進めていく。また、互いのよさに気付く。自分の表現に生かしている要素、工夫して発表していく。少人数で話し合いをして、一人一人に発表した指導できるように心がける。 【伝え合う】 <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取った音楽の構造や、楽器のよさを、常に心の働きと結び付けて言語化できるように習慣化していく。
図工	<p>知識・技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欲しいことに応じて道具や材料の特徴を生かして使い分けの力が十分ではない。 【思考力、判断力、表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの考え方をすぐに思い付き意図的に取り組む児童と、思い付きず作業が終ると満足感の強さが異なる。欲しいことを実現する方法を慎重に考えることが苦手である。 【発表】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品のよさを感じ取ろうという意図はあるが、具体的によさを記述する活動は苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技術】 <ul style="list-style-type: none"> ・道具や材料の具体的な使い方を定めておくと共に経験したことのない表現方法を試すことのできる機会を設けて欲しいことに応じて使い分け、主体的に学習に向き合うことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・【思考力、判断力、表現力等】 <ul style="list-style-type: none"> ・質問や話し合いの場を設けて、一人一人の考え合いなどを行いよりよい自分の表現につなげられる機会を作る。 【発表】 <ul style="list-style-type: none"> ・元の紙に貼り返すカードを記入し、自分のよさに気付かせる。 ・観察カードの項目や記述についてのポイントを具体的に提示し、思いを言葉で表現できるように手立てを工夫する。
	<p>作業の手順を考え、見直す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業手順や必要のものなどを自ら考え進めることが十分ではない。 【振り返り修正する】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の途中で、立ち止まり考えたり修正したりすることができない児童が見られる。 【自分の考えや思いの表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習中に困難なことが生じたときに適切に尋ねることができない児童が見られる。 ・作品に対する思いをうまく表現できない児童が見られる。 ・作品を作る際に工夫を加えたり自分のイメージを達成するために創意することが十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 【作業の手順を考え、見直す】 <ul style="list-style-type: none"> ・実習や製作を行うときに、材料・手順・段取りを考える機会と時間を設ける。 ・ヒッグバッドに作業順を掲示し児童が必要に応じて確認できるようにする。 【振り返り修正する】 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間をとり、振り返りカードを準備する。情報を交流することで、修正する機会も徐々に取り入れていく。 【自分の考えや思いの表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・質問や振り返りを言葉にする時間を設ける。必要な児童には、個別に表現方法を教える。 ・作品を見合う機会(タブレット使用も含め)を多くする。友達の間で感想や考えを見合わせる機会を多くする。交流の機会を増やすことで作品作りへの意欲・技術を高める。
体育	<p>運動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決する際に、運動の工夫をしている児童が少ない。また、体力テストの結果等から考えて運動量が少ない。 【グループで高め合う授業作り】 <ul style="list-style-type: none"> ・体育の時間中は、個人での運動になりがちになり、友達同士の言葉での交流があまり多くない。 	<ul style="list-style-type: none"> 【運動の工夫】 <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究での学んだこと等を活用し、「できる」と「わかる」の違いを解説させ、運動的に分かっていることをできるようにする工夫、あるいはできていることを運動的に説明できるようにする工夫の両面から技能ポイントを生かす活動を取り入れていく。運動量も増やす。 ・グループ学習を積極的に取り入れて、技能ポイントを分析させたり、アドバイスを送ったりさせることで運動の仕方の工夫を意図させる。 【グループで高め合う授業作り】 <ul style="list-style-type: none"> ・技能は言葉表現によって伝わる度合いが徐々に変わる。技能上達のためのコツを自分の言葉で言語化させる場面を多く設定する。
	<p>自分事として考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を自分事として考えることができないことがある。 【道徳的実践力】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを、実生活で生かすことができていない児童が多い。 【話し合いの活発化】 <ul style="list-style-type: none"> ・発言児童に偏りが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【自分事として考えるために】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを自分の生活と重ねて考える場面を設定する。振り返りでは、自分の生活にどう生かすかという視点で振り返らせる。 【道徳的実践力】 <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習や子供の生活場面と関連させながら指導を進める。学習したことを生かす場面を多く設定する。 【話し合いの活発化】 <ul style="list-style-type: none"> ・話し合う価値のある内容の選択と、どの意見も認めていく学校の雰囲気づくりに努める。
外国語活動	<p>積極的なコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語でのコミュニケーションに恥ずかしさを感じ、多くの友達とコミュニケーションをとることができない児童が多い。 【英語での会話】 <ul style="list-style-type: none"> ・単語の羅列が多く、文章として成り立たない児童が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 【積極的なコミュニケーション】 <ul style="list-style-type: none"> ・声を出している児童を称賛し、他の児童の意欲も向上させる。 ・チャットやゲーミングなど、児童が気持のウオーミングアップができる内容のものを導入に取り入れる。 【英語での会話】 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書を使用し、正しい文章を聞き反復練習する。
	<p>インターネットを用いた情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用して資料を集める活動が好き。資料を集めることが困難な児童もいる。 【表現方法の習得】 <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを表現する部分を苦手とする児童が多い。 【個人の活動が多い】 <ul style="list-style-type: none"> ・課題がそれぞれ異なることが多いため、個人の活動が多くなってしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【インターネットを用いた情報の収集】 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを用いた情報の収集するとともに、画像印刷の仕方などについても合わせて指導する。同時に本やインタビュー等インターネットに頼らない情報収集の利点についても指導していく。 【表現方法の習得】 <ul style="list-style-type: none"> ・新聞の書き方等、よく書けている児童の記述やレイアウトを紹介し、伝え合う。 【個人の活動が多い】 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習のねらいでもある、情報の発信までを必ず行う。発信は、友達や担任、保護者、下級生など、様々な立場の人に発信できるようにする。
<p>学習の目的や意味、成果を考えずに、受け身で学習に向かう児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習向に、学習の目的や意味、成果を考えられるよう、見直しもつ時間、自分を振り返ることができる時間を多く確保していく。 	
<p>学びに向かう力を育むための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目的や意味、成果を考えずに、受け身で学習に向かう児童が多い。 	